

広川町在住外国人に関する
アンケート調査
報告書
(事業所調査編)

令和3年2月

福岡県広川町

1. 調査概要

(1) 調査目的

広川町に在住する外国にルーツを持った住民に関連した地域の現状や課題等を把握し、広川町の実情に即した日本語教室を開設するため、外国人や事業所、地域住民を対象に調査を行う。

(2) 調査対象

調査の種類	調査内容	対象者数
①外国人調査	広川町在住・在勤する外国人	150人 (※町内在住外国人数 297人)
②事業所調査	広川町に所在し、かつ外国人を受け入れている事業所・農家等	37社
③外国人と関わる地域住民調査	外国人と関わる広川町に在住・在勤している地域住民(区長、民生委員、分館長、医療機関、金融機関、スーパー、行政機関、学校等)	190人 (※住民数 19,582人)

(3) 調査方法

アンケートを使用した質問調査(一部、地域日本語教育コーディネーターによる面接調査を実施)

※地域日本語教育コーディネーターとは

広川町では、文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」を令和2年度から実施しており、その事業の中で「生活者としての外国人」を対象とした日本語教室の推進に取り組む人。

(4) 調査期間

令和2年10月1日～令和2年11月30日

(5) 回収結果

調査の種類	回収件数	回収率
①外国人調査	136件	90.7%
②事業所調査	27件	73.0%
③外国人と関わる地域住民調査	176件	92.6%

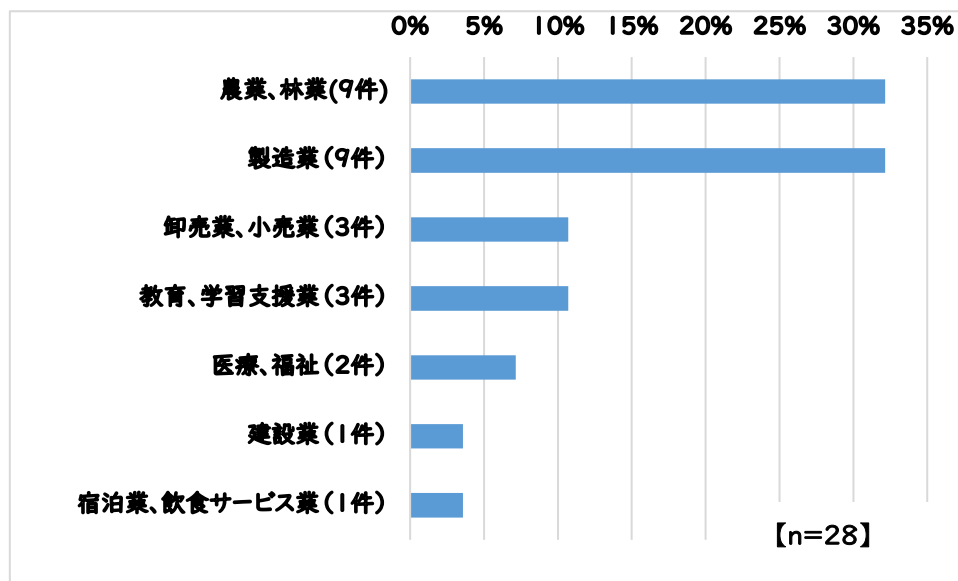
(6) 注意事項

- ・集計結果では、小数点第1位を四捨五入している。
- ・無回答については、除外して集計している。
- ・図表中の「n」とは、回答件数の総数のことで、100%が何件の回答に相当するかを示す構成の比率算出の基数である。

2. 事業所調査の集計結果

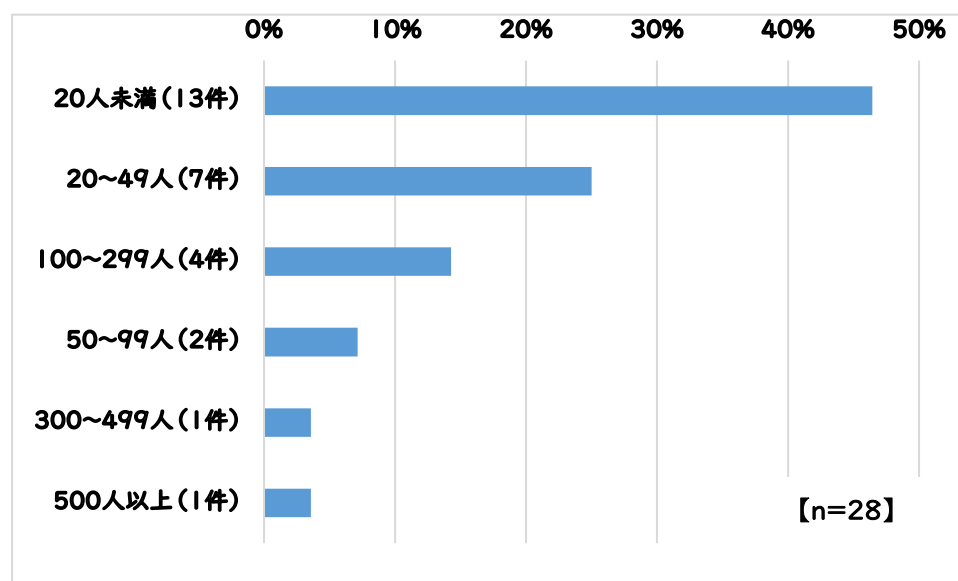
Q1 貴社が営んでいる事業の業種として最も当てはまるものは何ですか。

業種は、「農業、林業」が32%、「製造業」が32%と最も多く、次いで「卸売業、小売業」が11%、「教育、学習支援業」が11%となっています。



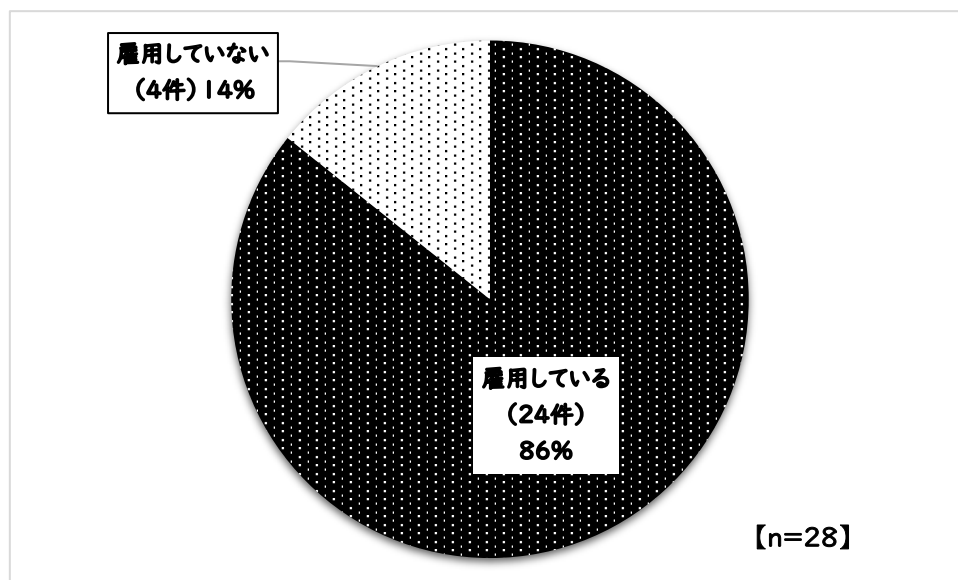
Q2 貴社の常用従業員について、当てはまるものを選んでください。

常用従業員数は、20人未満が13件(46%)と最も多く、次いで「20人~49人」が7件(25%)、「100人~299人」が4件(14%)となっています。



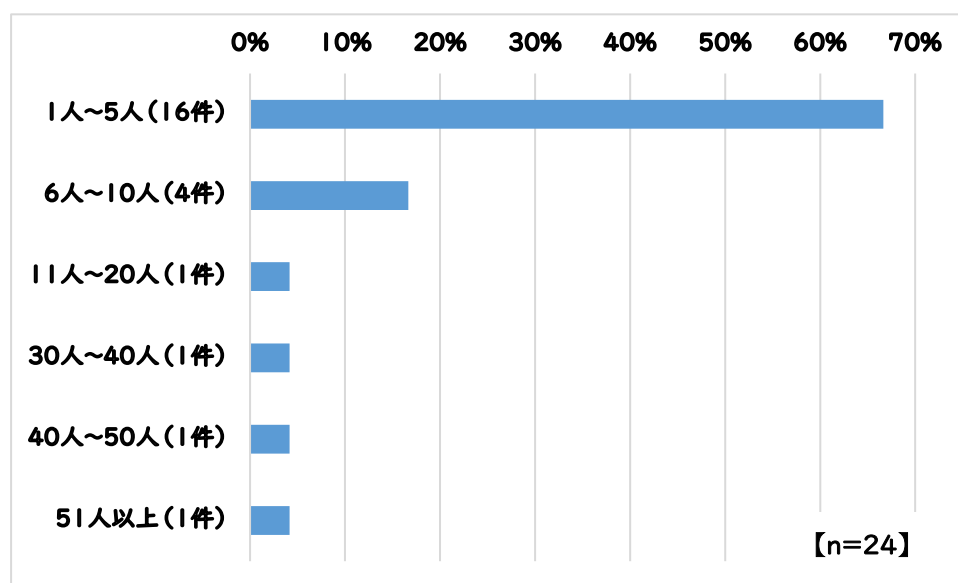
Q3 外国人労働者の雇用状況について教えてください。貴社は現在、外国人を雇用していますか。

外国人労働者の雇用状況については、「雇用している」が 24 件 (86%) となっています。

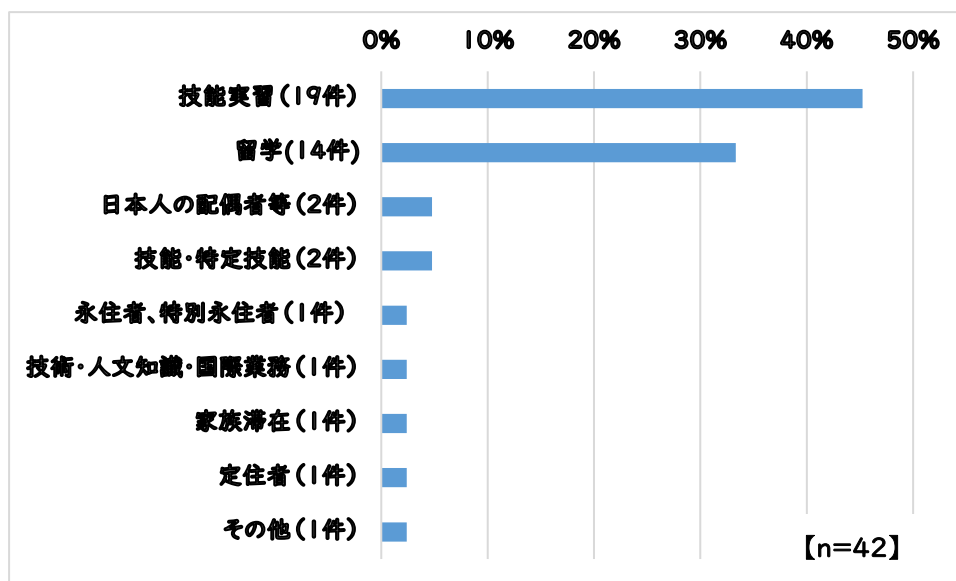


Q4 Q3で「雇用している」とお答えの方にお尋ねします。現在雇用している外国人の総数と、在留資格、出身国・地域について教えてください。(回答は3つまで)

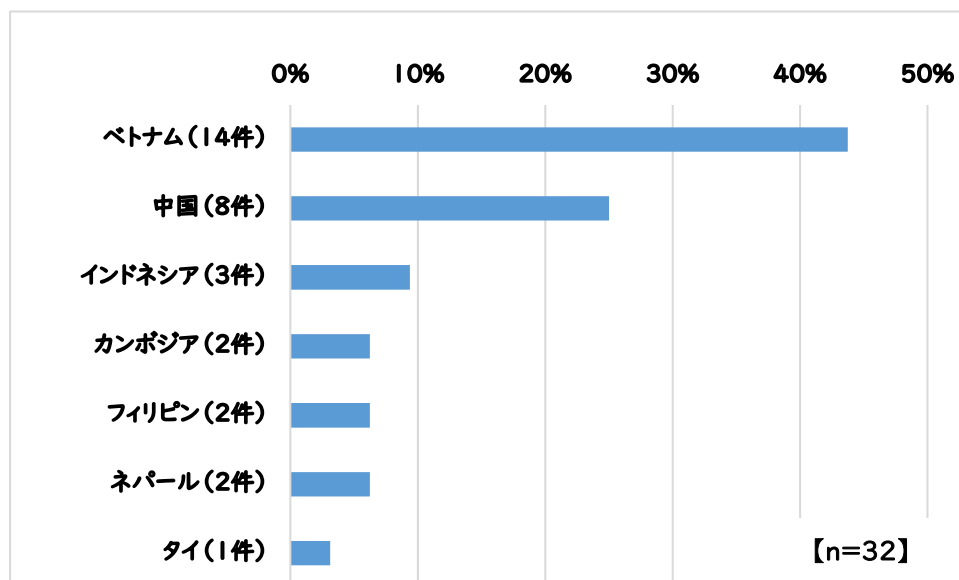
雇用している外国人の総数は、「1人~5人」が 16 件 (67%) と最も多く、次いで「6人~10人」が 4 件 (17%) となっています。



在留資格については、「技能実習」が19件(45%)と最も多く、次いで「留学」が14件(33%)、「日本人の配偶者等」が2件(5%)、「技能・特定技能」が2件(5%)となっています。

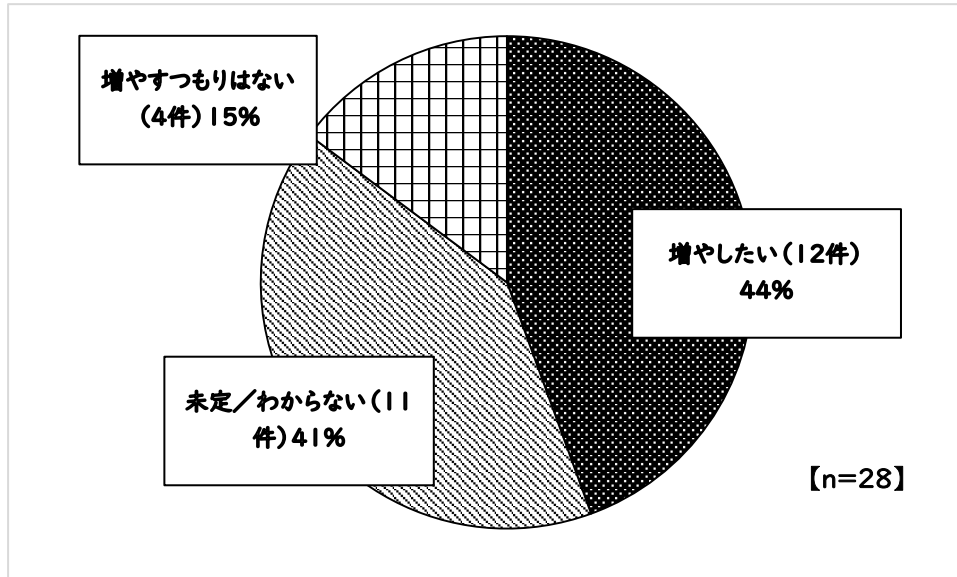


出身国・地域については、ベトナムが14件(44%)と最も多く、次いで中国が8件(25%)、インドネシアが3件(9%)となっています。



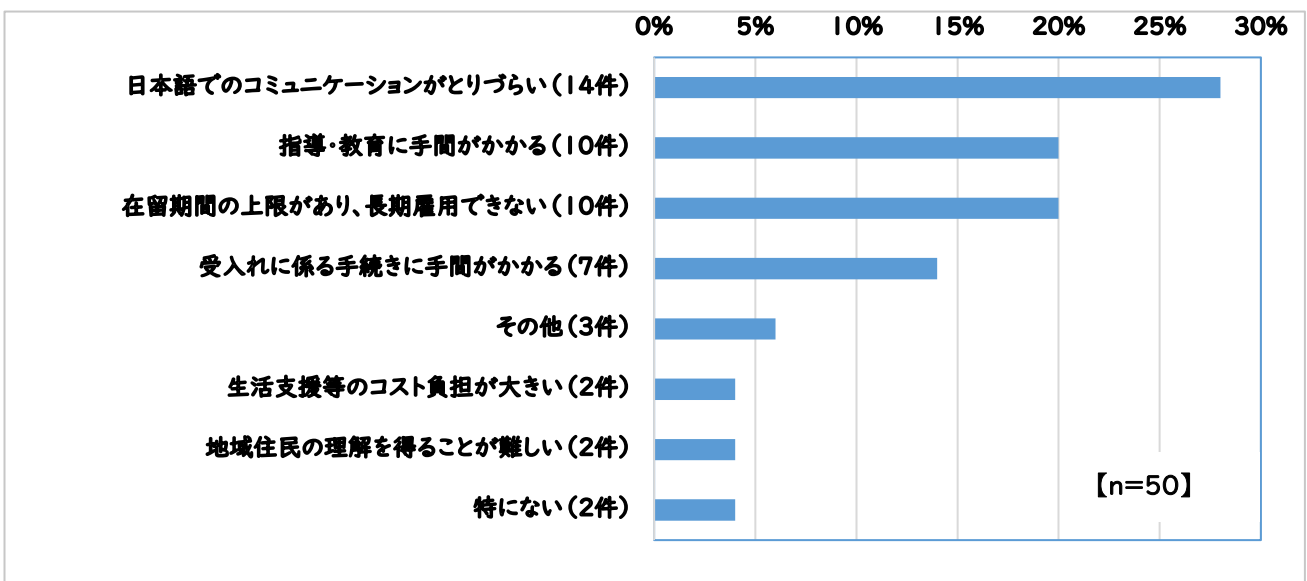
Q5 今後、外国人の雇用を増やしたいですか。

外国人の雇用については、「増やしたい」が12件(44%)と最も多く、次いで「未定/わからない」が11件(41%)、「増やすつもりはない」4件(15%)となっています。



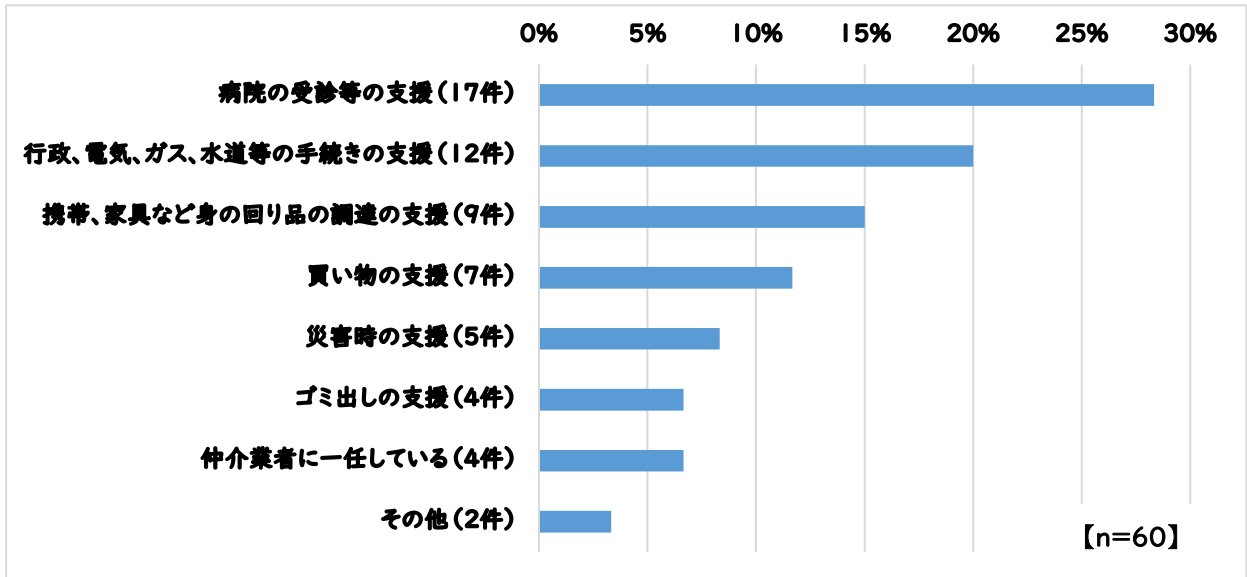
Q6 外国人労働者を受け入れるにあたり、課題や困っている点は何ですか。(回答は3つまで)

外国人労働者を受け入れる上での課題については、「日本語でのコミュニケーションがとりづらい」が14件(28%)と最も多く、次いで「指導・教育に手間がかかる」が10件(20%)、「在留期間の上限があり、長期雇用をしたくてもできない」が10件(20%)となっています。



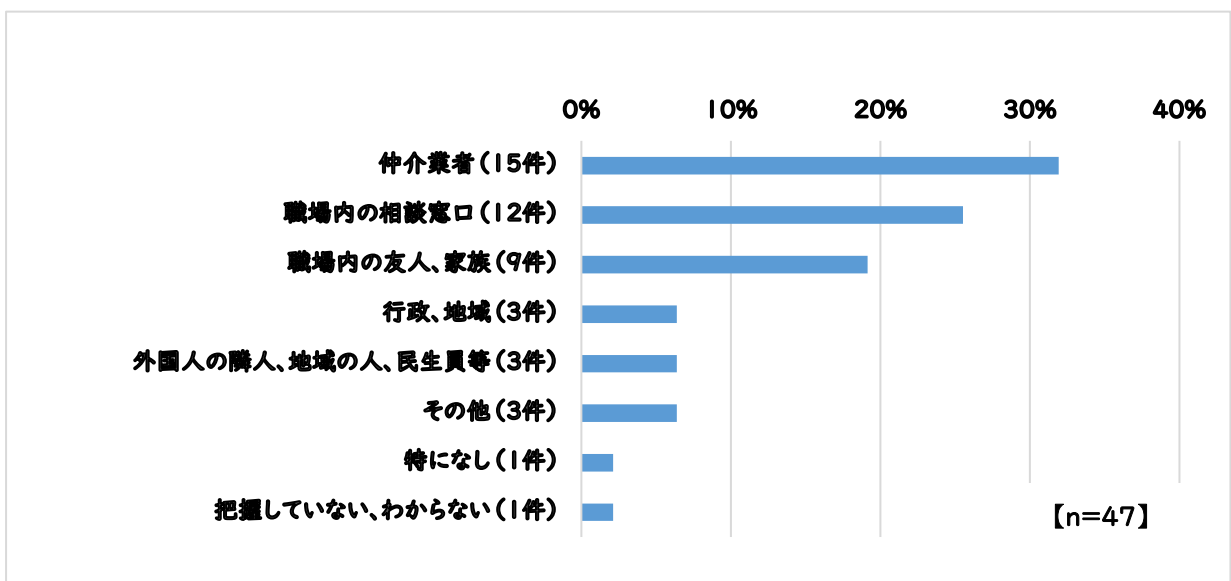
Q7 外国人労働者の普段の生活について、どの程度支援をしていますか。(回答は3つまで)

「外国人労働者の普段の生活について、どの程度支援していますか」という設問に対して、「病院の受診などの支援を行っている」が17件(28%)と最も多く、次いで「行政、電気、ガス、水道などの手続きの支援を行っている」が12件(20%)、「携帯、家具、消耗品などの身の回り品の調達の支援を行っている」が9件(15%)となっています。



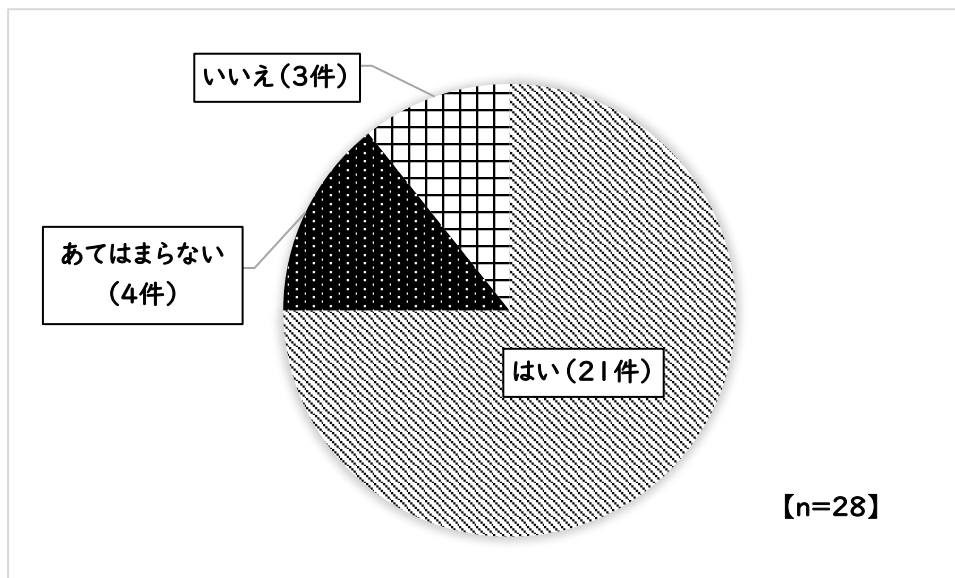
Q8 外国人労働者が普段の生活について、相談できる場が身近にありますか。(すべてに○)

「外国人労働者が普段の生活について、相談できる場が身近にありますか」という設問に対しては、「仲介業者」が15件(32%)と最も多く、次いで「職場内の相談窓口」が12件(26%)、「職場内の友人、家族」が9件(19%)となっています。



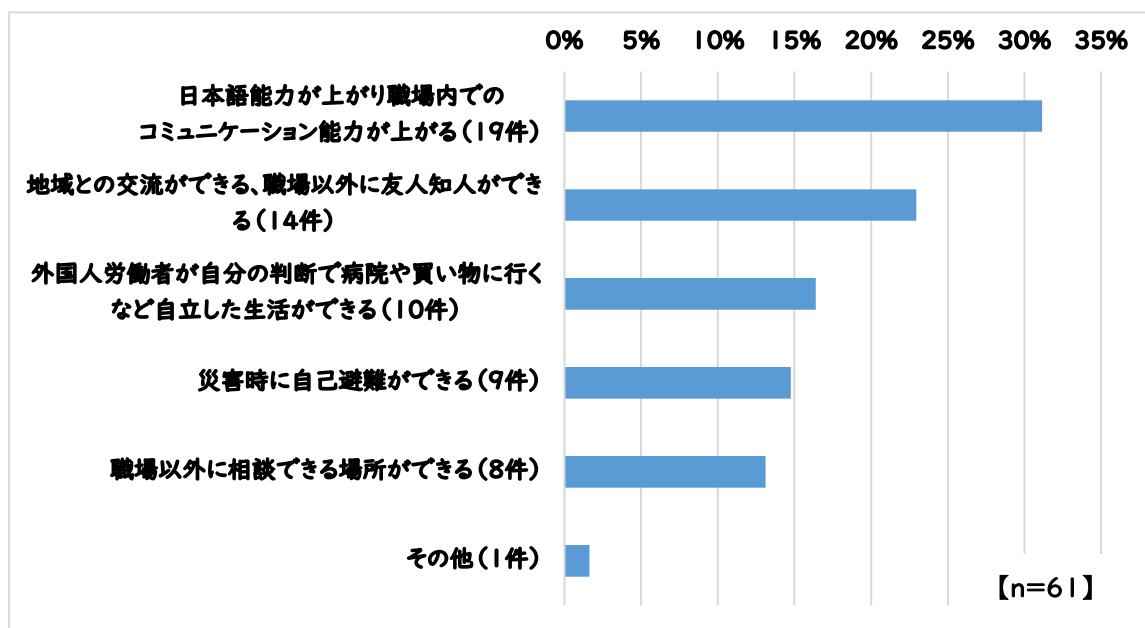
Q9 外国人の「生活」を支援することを目的とした日本語教室を作った場合、外国人労働者を参加させたいと考えますか。

「外国人の生活を支援することを目的とした日本語教室を作った場合、外国人労働者を参加させたいと考えますか」という設問に対して、「はい」と回答した件数が21件(75%)となっています。



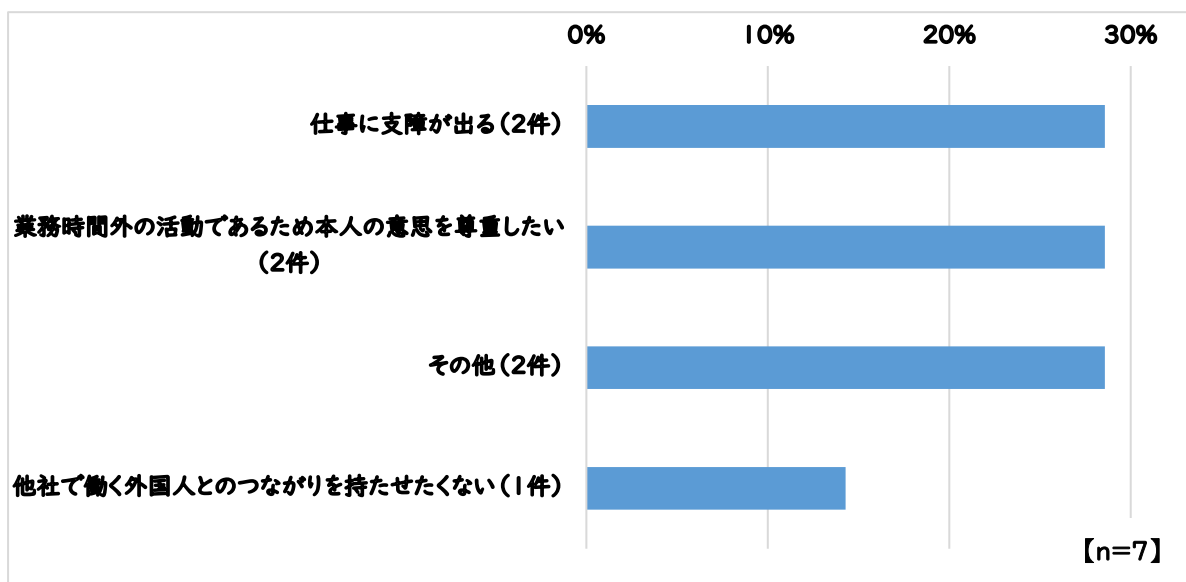
Q10 Q9で「はい」とお答えの方にお尋ねします。日本語教室にどのようなことを期待しますか。(すべてに○)

「はい」と回答した者のうち、日本語教室に期待することについては、「日本語能力が上がり職場内でのコミュニケーション能力が上がる」が19件(31%)と最も多く、次いで「地域との交流ができる、職場以外に友人知人ができる」が14件(23%)、「外国人労働者が自分の判断で病院や買い物に行くなど自立した生活ができる」が10件(16%)となっています。



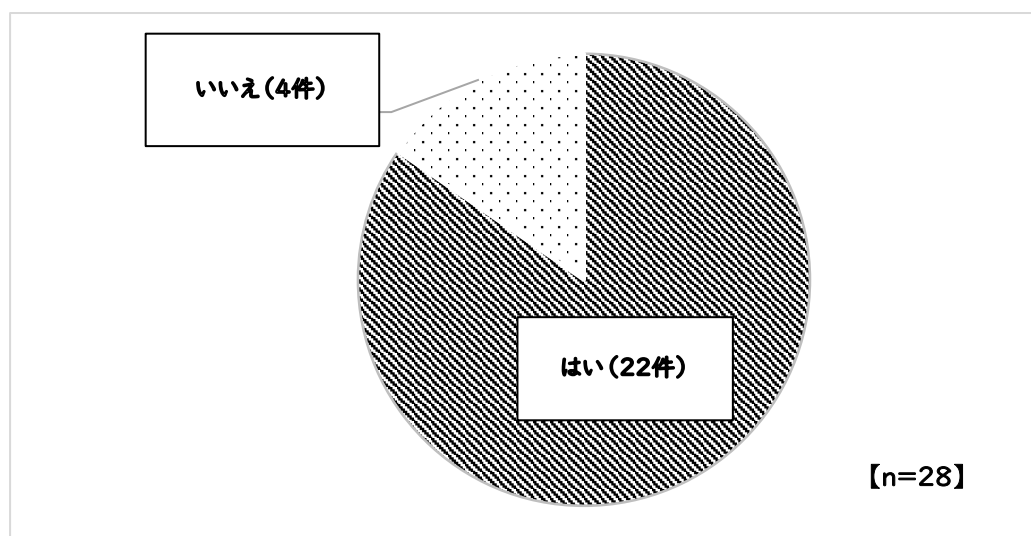
Q11 Q9で「いいえ」とお答えの方にお尋ねします。どのような理由から参加をさせたくありませんか。(すべてに○)

「いいえ」と回答した者のうち、日本語教室への参加希望しない理由としては、「仕事に支障が出る」2件(29%)、「業務時間外の活動であるため本人の意思を尊重したい」2件(29%)、その他(「日本語学校に通っている」、「日本語が堪能である」)が2件(29%)となっています。



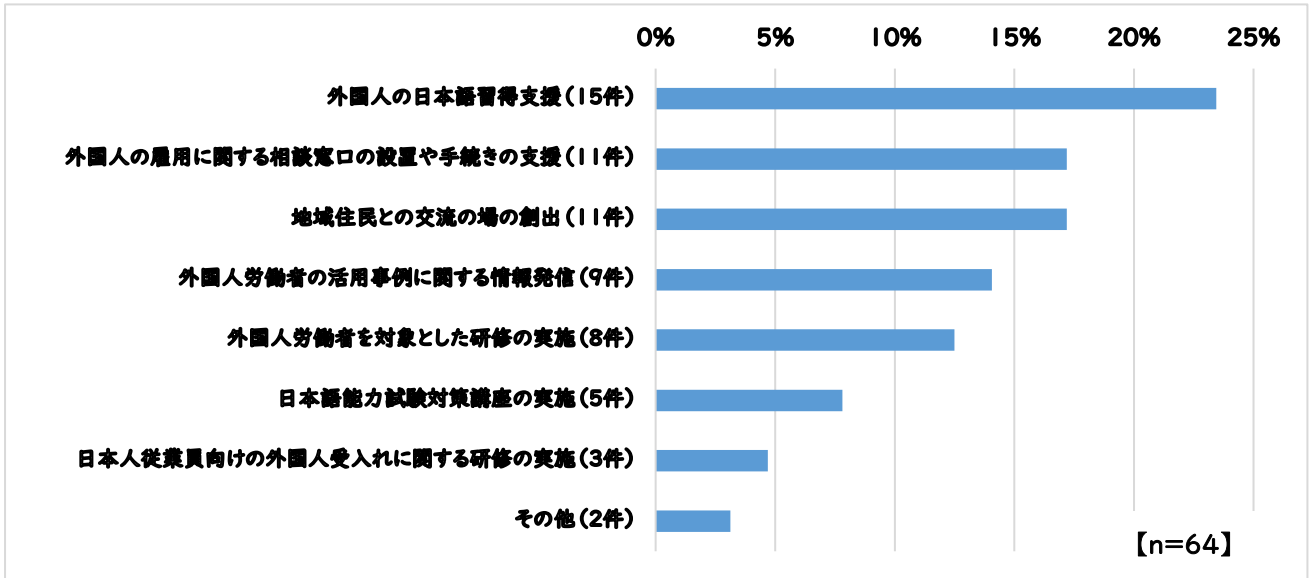
Q12 日本語教室以外で広川祭りのステージやブース、地域のイベント等に外国人労働者を参加させたいと考えますか。

「地域のイベント等に外国人労働者を参加させたいと考えますか」という設問に対しては、22件(85%)が「はい」と回答しています。



Q13 外国人労働者支援に関し、広川町に期待することはありますか。(回答は3つまで)

「外国人労働者支援に関し、広川町に期待することはありますか」という設問に対しては、「外国人の日本語習得支援」が15件(23%)と最も多く、次いで、「外国人の雇用に関する相談窓口の設置や手続きの支援」については、11件(17%)となっています。



Q14 外国人労働者について、過去に起きたトラブル等も含め、困っていることがありますか。

- ・過去技能実習生が失踪したことがあった。(3件)
- ・国民性の違いから問題があるときがあります。
- ・子どもがいる家庭で、学校からのプリントがわからない。
- ・通勤災害について外国人が悪くなると思っていることが多いので報告がない。
- ・ダブルワークの情報が確認できないこと。
- ・ぜひ居場所づくりをしてほしい。例えば近所からいただく野菜を使って料理を教えたり、教えられたり、ストレスを抱えないようにしてあげたい。また、子ども達との交流にも参加させてあげたい。
- ・現状困っていることはありません。このようなアンケートを経て、よりよい社会になればと願っております。